

古物之殆あれともるあらしを 後宇多院
建治二年に終つりと云傳へ傳るとを

一 新堂

天智年中子宿玄の像とそ天智寛文年中
をーめて赤糸巾を頂戴ー山中の石階を
降りて遊ぶは功ありー事を後年に感
を代立と。新堂とそ意匠のなるを彫る
二就後川の俣利加屋ふ初 東照権現の
手水石亦け人の作と云傳へり伊豆郡も
功名を誅ーと人とそ惜み配所の古と必
あふ年芭蕉庵三山願礼をくれー此追悼の
句

世のたゆや羽鳥にり 壬辰の月

一 神輿舎

壇上は後行若の神像を至六月十五日乙酉
の神輿を大堂のあへ渡すー此は洗をー
巡るは先は柳を渡すと又古より懺悔を
出ー神輿の供に社家何れも供にそ
後獅子を舞古来ハ程武若亦出ーとそ山
中も大堂の御座は席を設て神輿を拜